U35

U-35委員会企画「MIDOSUJI ACTION」活動報告

2023.10.28-29の２日間で開催された「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2023」に合わせ、8th action「建築とみち」IBARAKI STREET ACTIONで設計した木ユニットを大林組・竹中工務店・日建設計・日本設計の敷地内に設置しました。

当日の様子を動画にまとめています。
U-35委員会HPからご覧ください。

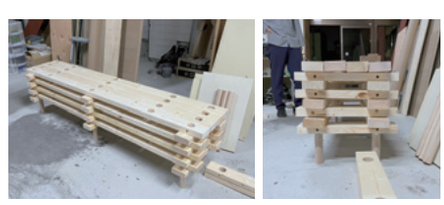
U-35委員会インスタグラム開設しました。
活動内容やメンバーの雑感などざっくばらんに情報をアップしています。
https://www.instagram.com/u35.aaj/

IBARAKI STREET ACTIONのその後

2023.3.25に開催したU-35委員会企画である8th action「建築とみち」IBARAKI STREET ACTION で（建築と社会2023年７月号掲載）使用した木ユニットは社会実験終了後に解体され、立命館大学の倉庫に保管していました。一方、この木ユニットを8th action のような社会実験や今後のイベント時のみに使用するものとして常時倉庫に保管しておくだけではない、新しい活用の仕方があるのではないかと思案していました。木ユニットのシステムはIBARAKI STREET ACTIONで設置したような、空間を仕切ったり繋いだりするラインや拠点となる櫓状のブース以外にも様々な形状や使われ方へ展開できないかと、実際に新しい形状としてモックアップを作るなど検討を重ねてきました。同様のシステムで組み方を工夫することで、ストリートファニチャとしても活用できるベンチやテーブルにもなりえたため、例えば、通常は都市のパブリックスペースに常設し、イベント時にはその空間や用途に合った形状へ展開するなど新しい保管の可能性も見えてきました。

8th action “IBARAKI STREET ACTION” の様子

8th actionで使用した旧材に加え、木ユニットの更なる展開が可能となるよう材料を増産（左：新材、右：旧材）


新たなユニット（常設ベンチ）の試作の様子

IBARAKI STREET ACTION から MIDOSUJI ACTION へ

今後の都市のパブリックスペースへの展開の一つとして、2023.10.28-29の２日間で開催された「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2023」（以後イケフェス）に合わせて、IBARAKI STREET ACTIONで用いた木ユニットを大林組・竹中工務店・日建設計・日本設計の敷地内に設置しました。御堂筋沿いに面した場所に連続的に展開させることで、都市の中に点在するストリートファニチャとして認識されることをねらいとしています。IBARAKI STREET ACTIONで設置したラインやブース以外にベンチやテーブル、展示ウォールなどの新しい組み方による形状にチャレンジしたほか、ピロティ・街角・屋内など設置場所の特性に合わせて空間を可変させるシステムとして可能性があることを確認しました。２日間（竹中工務店のみ２週間）の限定的な設置でしたが、イケフェスで各社を訪れた多くの来館者の方や、通りすがりの方にも広く知っていただく機会となり、今後の展開が期待される取り組みになりました。

MIDOSUJI ACTIONマップ

■日本設計

昨年に引き続き、都市・市民のための居場所となるピロティカフェを設置した。建物オーナーご協力のもと、御堂筋に約35m面する興銀ビル１階ピロティを会場としている。
イケフェスでは御堂筋界隈を散策するイベント参加者が一息つける空間として設える一方で、2037年御堂筋フルモール化へ向け行われている街中の様々な社会実験と同様、ピロティを敷地境界に囚われない都市の滞在空間へと再編することを意図した空間でもある。一般的な社会実験では、期間に対し固定的で高価な設えや、既成テントなどで安価でも似通った場づくりになりやすいことが課題のように思う。木ユニットをこの機会に活用することで、そうした社会実験の設えのオルタナティブを示せないかと考えた。展示ブースの他に、カフェスタンドや常設可能ベンチ、既存壁面や柱のオーナメントなどシティドレッシングとしても木ユニットを活用し、前回のAction から更に発展した使い方を試み、上手く機能する事が確認できた。　（倉知）

御堂筋を引込むピロティカフェ

柱型オーナメントと御堂筋沿いベンチ

カフェスタンド

■竹中工務店

大阪本店（御堂ビル）下で、御堂筋と本町通沿いの２か所に木ユニットを設置した。ウォーカブルなまちづくりを目指す竹中工務店主導の御堂筋実証実験Smart Camp Lab.とのコラボレーションによって、キッチンカーとの併設で場づくりを行い、イケフェスからの２週間、開催した。Smart Camp Lab.では、「不動産」と「可動産」との組み合わせにより、社会状況の変化に対応し、持続可能なまちづくりに貢献する未来を描く。今回は、固定店舗による可動店舗の展開手法の検証が主軸となって、キッチンカーをシェアリング型の可動店舗とし、数店舗の食事がキッチンカーで販売される実験を行った。この実験に合わせ、木ユニットは、キッチンカーで買った食事を食べるスペースとして、ベンチを中心に人を招きいれる形で囲い形成し、家具と合わせてくつろげるスペースを計画した。普段は、通りすぎるだけの歩道沿いであるが、木ユニットの設置によって、御堂筋を立ち止まって眺めることができる外部スペースの居心地の良さを体感できた。　（河﨑）

御堂ビル下に設置した木ユニットとキッチンカー

歩道沿いのオープンスペース

ベンチで囲われた食事スペース

Member's Forum

会員投稿の頁

■日建設計

オフィス移転後、初となるイケフェスの開催であった。2023年の春に御堂筋沿いに移転した大阪オフィスはDEPARTMENT（部署）ごとではなく、階ごとのACTIVITY（活動）に応じたフロアデザインとなっており、様々な“PLAY”（行動をとる、演じる、仕掛ける、楽しむ）に合わせて、皆が使い込むオフィスを目指している。今回MIDOSUJI ACTIONとして、5FのEI-FABというコラボレーションエリアの一角にカフェコーナーとして木ユニットを設置し、U-35の活動紹介の展示を行った。イベント当日は木ユニットの横で塗り絵ワークショップや新オフィスの見学ツアーなどが開催されており、人通りも多かったが、木ユニットが室内の動線や空間の仕切りとしてもうまく機能していた。社内ではオフィス移転後、ワークプレイス活用の様々なトライアルを続けているが、今回の木ユニットでの展示は、ワークプレイス内の仕掛け（PLAY）としても展開していく可能性を感じる良い機会となった。（円田）

木ユニットとカフェコーナー

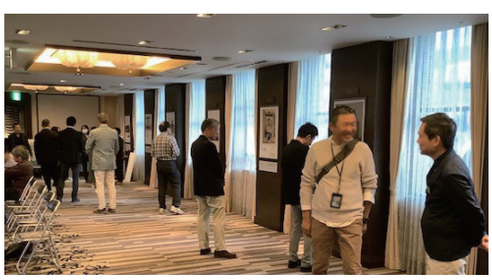
イベント前日の組み立て風景

U-35の展示パネル

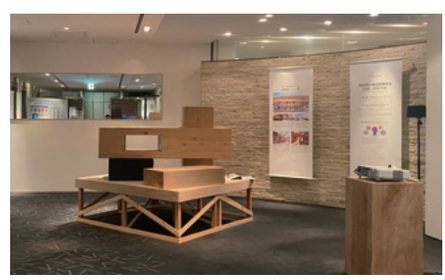
■大林組

ルポンドシエルビル（大林組旧本店）にて関西モダニズムに関するトークセミナー、建物ガイドツアー、万博のモックアップ展示、イケフェス連携アプリ案内などの多様な催しを行った。木ユニットはエントランスホールに設置し、トークセミナー会場に誘導する展示パネルとして機能した。展示内容は関西モダニズムに関するものだが、木材で構成されたブースが、万博のモックアップをはじめとする木質系のコンテンツとも調和し、双方の空間やコンテンツをつなげる役割を担った。木ユニットの各ジョイント部が自由に動かせるという特性を活かし、角度調整により自由にかたちを変形させ、空間にフィットさせることができた。スペースが限られる内部空間においても計画・搬入・設置・撤収をスムーズに行うことができた点で、より多様なシーンや空間においても活用できる可能性を感じた。（大屋）

展示パネル



木ユニット展示パネルに誘導され、展示会場に至る



木が共通言語となり、展示空間と調和した

■座談会
ーMIDOSUJI ACTION での気づきー

河﨑　今回イケフェスでの活用を通して改めて、ビスを使わない組立方式としたことで、瞬発力をもった可変可能な場づくりができることを実感しました。イケフェスで開催した４エリアそれぞれが、茨木市の社会実験とも違ったその場に寄り添った居場所をつくっていたように思います。

円田　そうですね、接合部に特殊な工具が必要ないディテールであるため、組み替えの手間がかからないし、組立だけ参加してもらったスタッフもすぐに組立の要領を掴んでいました。空間の大小に合わせて形状・大きさをすぐに調整できる「手軽さ」がこの木ユニットのポイントであるように感じます。

大西　「手軽さ」というのは、組立のしやすさの他に、だれでも直感的に組み替えてカスタマイズすることが出来る、という点でも重要ですよね。今回のactionで実感しましたが、ストリートファニチャとして使っても、また屋内で家具として使っても、どんな空間にも適応する存在となっていたと思います。２×４材と丸棒Φ40どちらも規格品で入手しやすい材料をベースに、２×４材には45Φの穴あけ加工を行っていますが、拡張性が高くなるよう穴の数やスパンなど、モジュールの設計を綿密に検討した成果だと思います。

市川　8th action座談会でも議論になりましたが、このモジュール設計はコンパクトに収納可能で、持ち運びの容易さも配慮したので、茨木市で使用されたものが、御堂筋で使われ、来年１月にはまた茨木市の社会実験で使用するという運用の実現まできましたね。

河﨑　まさに木ユニットが遊牧民的に移動しながらその場所に合わせて場を可変させていくような感じですね。(笑)

水野　「遊牧民的」という言葉いいですね。木ユニットが移動するとともに、毎回違う形で組まれて利用されるところが面白い点です。ファニチャをトラックで運んで設置するといった、ただ移動して使うものとは意味合いが違うと思うんです。

河﨑　遊牧する＝Nomadic という言葉はより良い住環境や豊かな土地を求めて旅する。という意味でもあり、木ユニットの設計で私たちが目指していることに近い言葉です。次の展開を考えるヒントになるかもしれません。

ーノマディックなディテールー

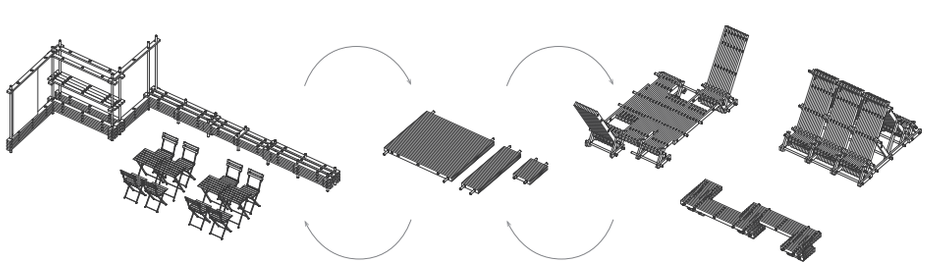
大屋　通常の木の線材同士をつなげて空間をつくるときは、部材同士を接合することで空間を完成させることを目的としていますが、ノマディックな視点で考えると完成を目的とする施工性に加え、解体・運搬・収納に目を向けることで、作るだけで終わらないディテールとすることが重要になってきますよね。私たちが提案する木ユニットは部材を積層させて安定させるため、材料の固定を最小にすることで解体を容易にしていると同時に、部材同士をつなげて運べることにより、運搬や収納を容易にしている点ではノマディックなディテールであると思います。
一方で課題として見えてきたのは、これまで手運びや台車を主な運搬手段としていましたが、MIDOSUJI ACTIONでは車両による運搬が増えたことで車の寸法体系に合わせたより合理的な運搬方法の整備が必要になったと感じています。

円田　現状の木ユニットは1,820㎜の２×４材が基本部材であり、大人複数人で組立ることが前提となっています。さらに屋内空間で使用する場合において少し大きいと思いました。例えば半分の910㎜にするなど、大人一人（あるいは子供）でも運びやすく組立やすい部材も用意出来れば、より「手軽さ」を強化できるのではないかと感じました。

倉知　皆さんが感じているように「手軽さ」や「多機能性」が重要で、ノマディックなディテールや組立システムがその２つの性能を支えている、という事だと思います。この手軽さと多機能性を更に磨くと、様々な社会実験や公共空間の要求に応えるガジェットとして、都市の風景を変える力すら持ちはじめると思います。例えば街に溢れる仮設の風景（テントやコーン、仮囲い等）も、木ユニットに置き換えれば居場所付きで見た目にも優しい。この先も人間は都市における小さな試みを繰り返すでしょう。手軽で多機能な木ユニットのような存在があれば、それを使って人はより良い都市の未来をスタディできる。そんな存在になれるよう改良していきましょう。

市川　今は社会実験など一時的な利用に限定されていますが、使用期間以外の時間についても考える必要があると思います。木ユニットはコンパクトに収納可能な設計になっていますが、倉庫に保管していては倉庫の容量も必要になります。例えばパブリックファニチャなど常設可能な状態で都市のパブリックスペースに設置し利用してもらい、社会実験やマルシェなどでブースとして使いたい時は組み替えて使用するといったことも可能です。ノマディックなディテールとは「ばらして使い変えること」を前提としている為、その可能性を追求することで、常に資材に利用価値を持たせたまま、都市の中に資源が滞留している状態をつくることが出来ると考えます。

水野　実証実験などで使われた家具が倉庫に眠っていたり、実験後廃棄されることもよくありますよね。サスティナブルが求められる時代において大切な視点だと思います。今後も茨木市や他都市でも実績を積み上げながら次の展開を考えていきたいと思います。



イベント・マルシェブース　　コンパクトに移動　　パブリックファニチャ

9th action -IBARAKI STREET ACTION 2024-
2023年３月25日に開催された8th actionに引き続き茨木市役所と茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」の間の道路にて、社会実験を開催します。是非ご参加ください。
開催日：2024年１月19日（金）、20日（土）
主催：茨木市
運営：竹中工務店・日本建築協会U-35委員会